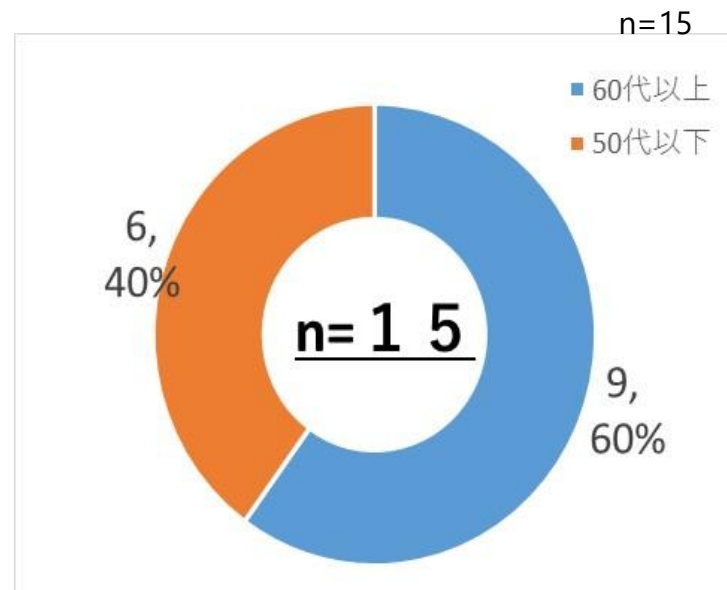


1. 回答者属性

(1) 開業医の年齢構成

回答者の年齢構成からは、極端に大きな世代の偏りはみられない。ただし、回答者において30代以下の回答者はゼロである。

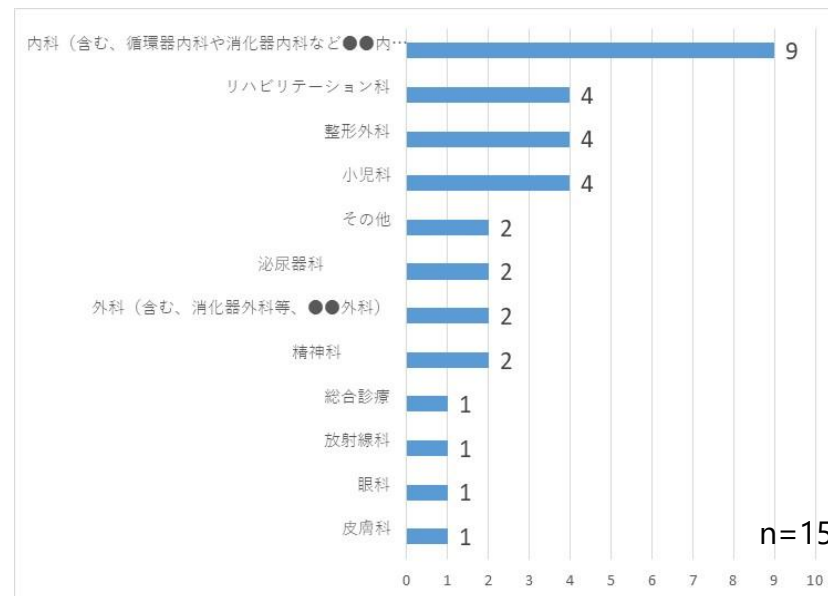
※アンケート選択肢は10代刻みでの設定となっているが、少数回答項目では個人が特定される恐れがあるため、60代以上と50代以下として報告します。



(2) 開業される先生の診療科・専門領域（複数回答）

回答いただいた先生方の診療科・専門領域は「内科（含む、循環器内科や消化器内科など●●内科）」が最も多く9医院（69.2% 回答者比）となっている。また、子育て世代からのニーズが高い小児科に対応する診療所は4医院（11.4% 同）。

なお、選択肢として設定したものの、診療科・専門領域として選択されなかった診療科は「産婦人科・産科・婦人科・耳鼻咽喉科・脳神経外科・麻酔科・病理診断科・臨床検査救急科・形成外科」の9診療科となっており、このうち、H28年度からの10年間で奄美市からなくなった専門領域は「産婦人科・耳鼻咽喉科・形成外科」の3科となっている。

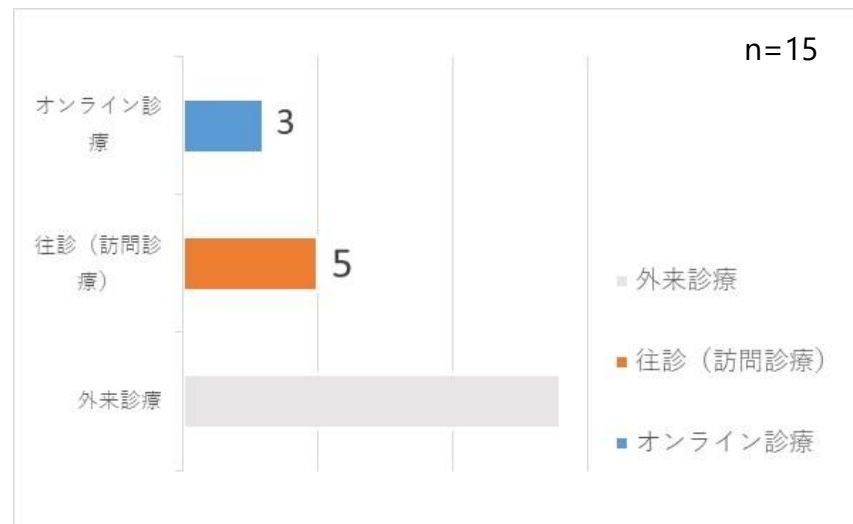


2. 診療所における診療提供体制

(1) 診療の実施方法（複数回答）

本市内の診療所は外来診療を中心としながらも、往診（訪問診療）を実施している診療所が5医院（33.3% 回答者数比）あり、またオンライン診療を行う診療所が3医院（20.0%）あるなど、各診療所の努力により患者等の実態に即した多様な診療提供がなされている。

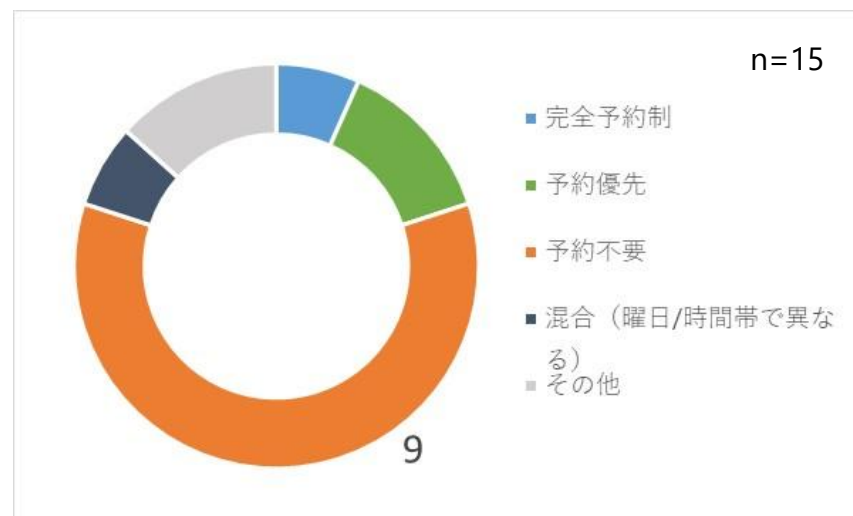
※外来診療の数字により特定の診療所を特定できうるため外来診療の実数は掲載していない



(2) 診療の受付方法

本市内の診療所の多くが、診療の受付方法について予約不要としており、市民の急病等にも対応できるよう、地域のかかりつけ医としての柔軟な受付方法を確保している。

※その他のパターンとしては「初診は完全予約・再診は予約不要」といった混合型



2. 診療所における診療提供体制

(3) 夜間・祝日の対応（複数回答）

奄美市内の診療所においては、多くの診療所が原則休診としながらも、「通院者の急病」や「訪問診療患者の急変」、「感染症拡大」等、患者の状況や感染症の拡大時には診療を行うなど、患者及び市民の健康確保のための対応に努めている。

(4) 診療所の情報発信

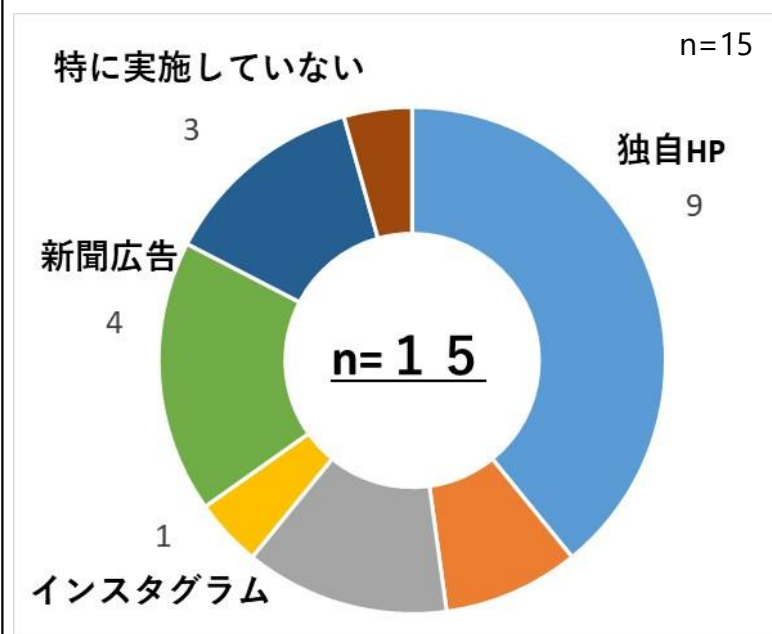
回答をいただいた診療所のうち9医院（60.0% 回答者数比）が診療所独自のHPを開設しているものの、WEBサイト上での情報発信としての選択肢4項目（※）中、2以上の情報発信を行っている診療所は3医院（20.0% 同）に留まっている。また、インスタグラム等のSNSを開設している診療所は1医院のみとなっている。

また、特に情報発信を行っていない診療所は3医院（20.0% 同）となっている。

※WEBサイト上での情報発信としての選択肢4項目

- ☐ 診療所独自のHP
- ☐ 医師会のホームページ
- ☐ 民間が開設している病院情報等まとめサイト
- ☐ インスタグラム等のSNS

なお、選択肢として設けられなかったが、厚生労働省が運営するWEBサイト「医療情報ネット（ナビ）」でも各診療所の情報発信はなされている。

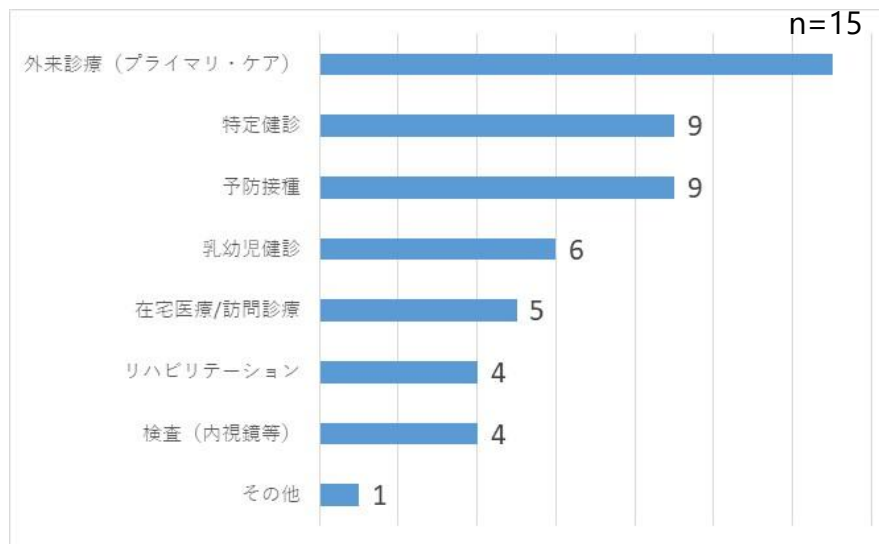


3. 診療所が担う役割における診療提供体制

(1) 診療所が担う役割（複数回答）

奄美市内の診療所においては、いわゆる「かかりつけ医」として重要な役割を担っているほか、特定健診・予防接種を担う診療所が9医院（60.0％ 回答者数比）あるほか、乳幼児検診を担う診療所も6医院（40.0％ 同）あり、地域医療において幅広かつ重要な役割を担っている。

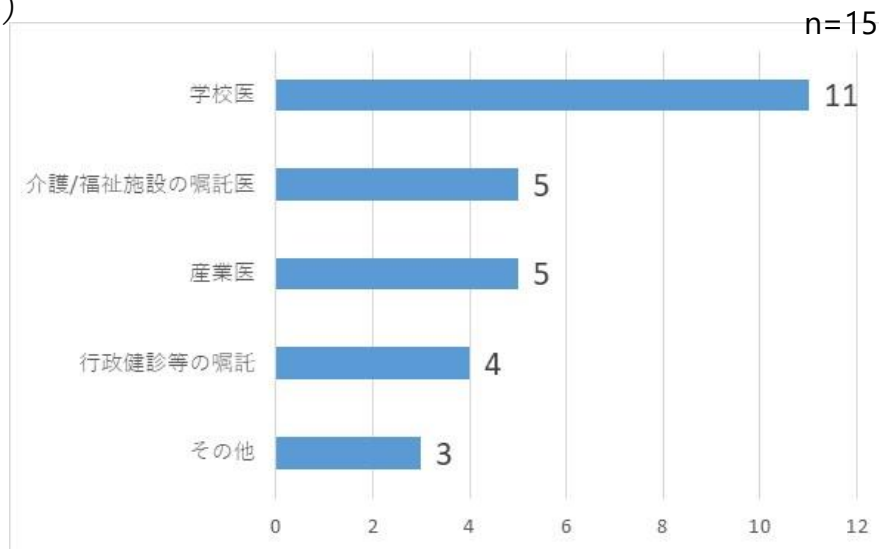
※外来診療の数字により特定の診療所を特定できうるため外来診療の実数は掲載していない



(2) 学校医・産業医・嘱託医等の担当状況（複数回答）

回答をいただいた診療所のうち11医院（73.3％ 回答者数比）が保育所・幼稚園・小中学校の学校医を担っているほか、介護/福祉施設の嘱託医及び産業医を担う診療所が5医院（それぞれ33.3％ 同）、行政健診等の嘱託を担う診療所が4医院（26.7％）となっている。

このことから、本市内診療所においては、教育・福祉・産業・行政など、多様な分野において重要な役割を担っていることがわかる。
※その他については「高校」や「特別支援学校」の学校医

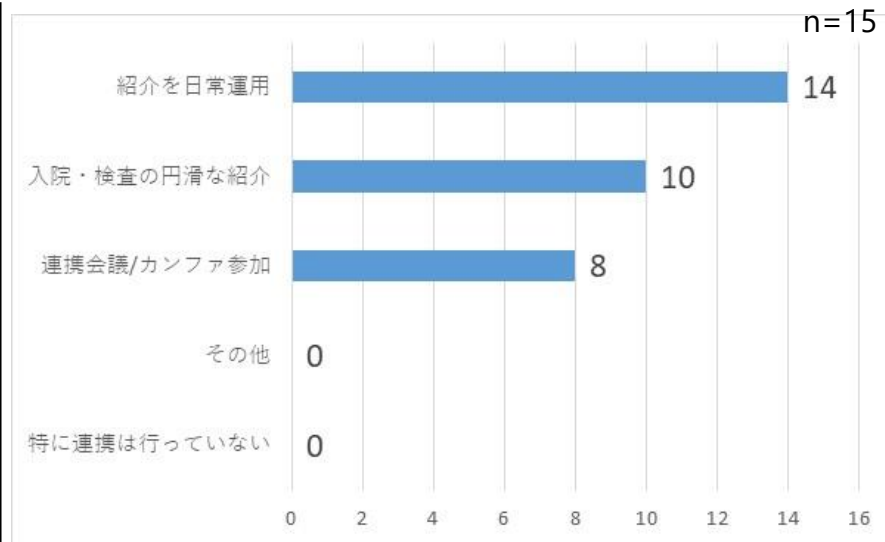


3. 診療所が担う役割における診療提供体制

(3) 他医療機関との連携状況（複数回答）

奄美市内の診療所においては、回答した方の93.3%に及ぶ14医院が他医療機関への紹介を日常運用しているほか、入院・検査等の円滑な紹介や、連携会議/カンファ参加の形で、連携に努めている状況である。

加えて、特に連携を行っていないと回答した診療所はゼロとなっている。

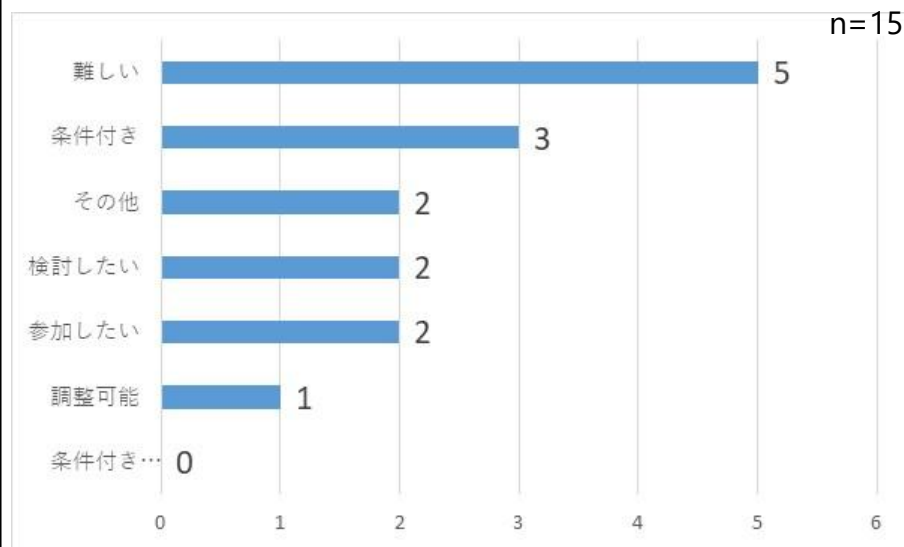


(4) 専門外来の曜日調整や、土日診療当番などの補完連携へのお考えについて（複数回答）

回答をいただいた診療所のうち、「参加したい」、「検討したい」、「調整可能」の比較的前向きな回答の計が5医院（33.3% 回答者数比）、難しいとした診療所は5医院（33.3% 同）であった。

また、条件付きの意見としては「既に専門外来の曜日調整を行っている」というものや、その他意見として「既に土日診療を行っている」との回答も寄せられた。また、「救急診療所閉院の経緯を調べてください」との意見もあった。

※「救急診療所閉院の経緯」…



4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(1) 医療機関経営者となったきっかけ (単一回答)

ご回答いただいた方の中で、11名(73.3% 回答者数比)の方がご自身で創業されている。

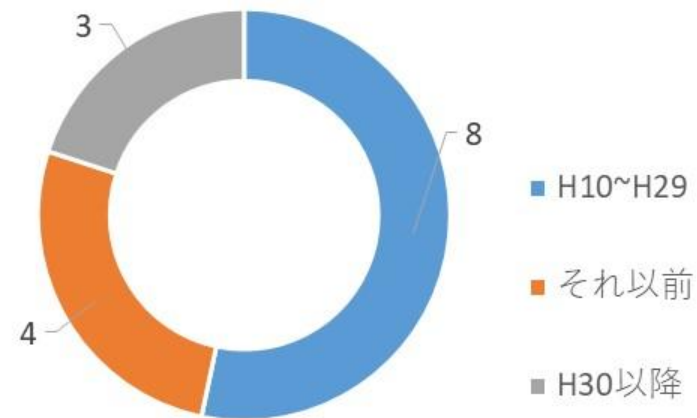
他の選択肢として「親族から承継した」「親族以外の第三者から承継した」があるが、選択肢別の回答者数により回答者の特定がなされないよう記載を省略しました。

(2) 医療機関経営者となられた時期 (単一回答)

ご回答いただいた方の中で、
医療経営者となった年数が概ね10年から20年が経過する方が最も多く8名(53.3% 回答者数比)、次いで概ね20年超となる平成0年代以前の方が4名(26.6% 同)、概ね10年未満となる方が3名(20.0% 同)となっている。
※四捨五入により()内の割合は合計で100%とならない。

ご回答いただいた
15名のうち11名が
創業

n=15



4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(3) 現在の承継プランについて（複数回答）

①回答者全体

（複数回答項目であることに留意されたい）

現在の承継プランとしては、「閉院」も視野に入れ選択した方が

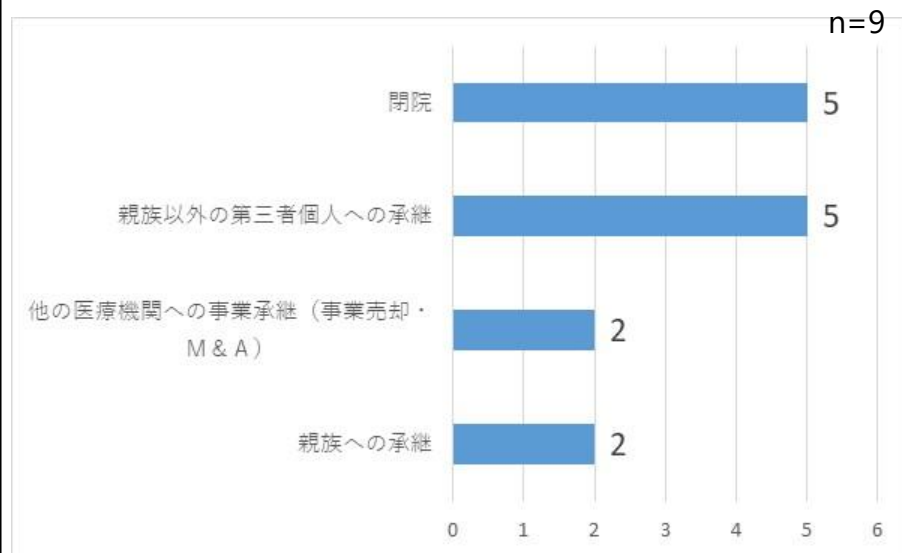
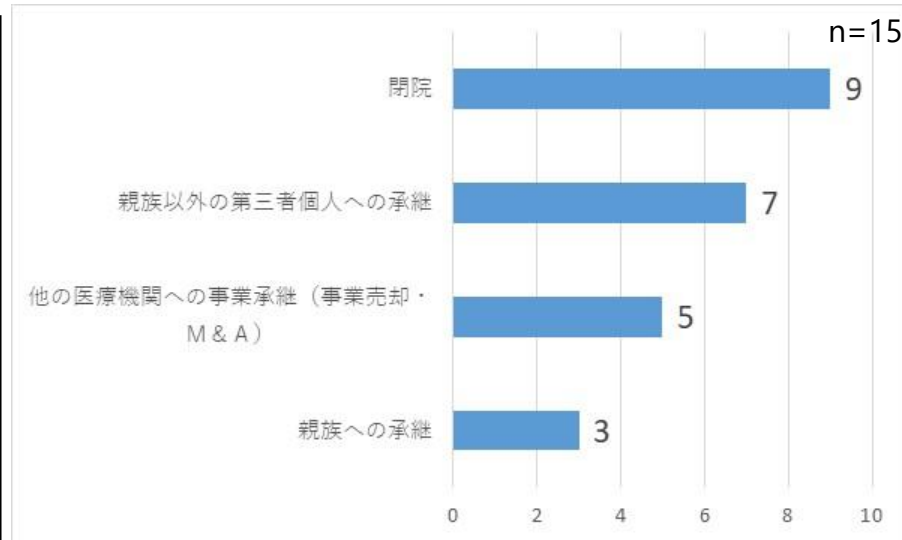
9名（60.0% 回答者数比）となっている。しかしながら、「閉院」のみを選択した方は3名（20.0%）に留まっており、現時点においては80%の開業医の先生方が、医業承継を選択肢として考えていることが分かる。

(3) 現在の承継プランについて（複数回答）

①60代以上

（複数回答項目であることに留意されたい）

現在の承継プランについて、60代以上の方の回答を抽出すると、「閉院」も視野に入れ選択した方が5名（55.5% 回答者数比）となっており、全体における回答割合を若干下回っている。なお、「閉院」のみを選択した方は2名（22.2%）となっており、全体における回答割合を若干上回る結果となっている。



4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(4) 親族以外等への承継プラン検討にあたっての不安(単一回答)

親族以外の第三者や他の医療機関への承継を検討するにあたって、不安に思うこととして、最も多かった回答が「候補者を自力で探せるか」ということで選択した方は5名(33.3% 回答者数比)となっている。また、承継に当たっての譲渡金額に関する不安及び候補者選定のための相談先確保についての不安がともに4名(26.6% 同)となっている。

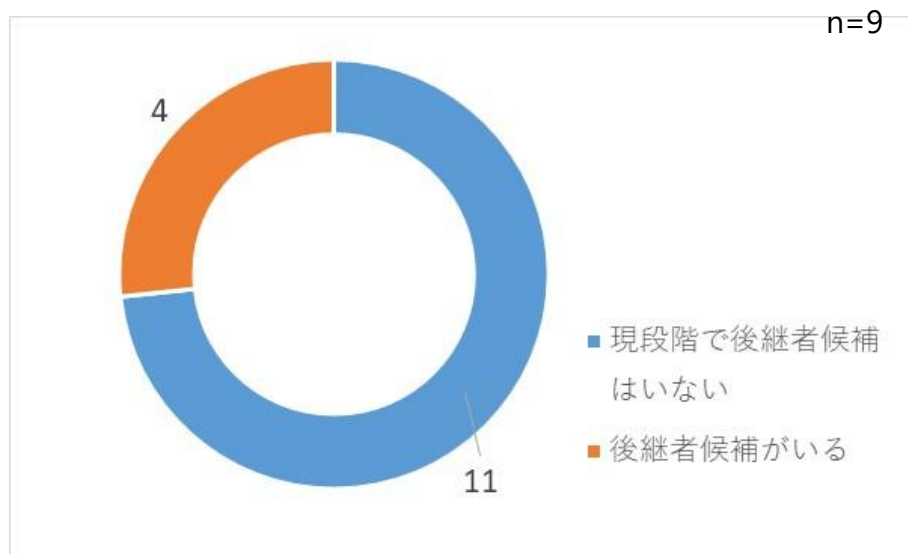
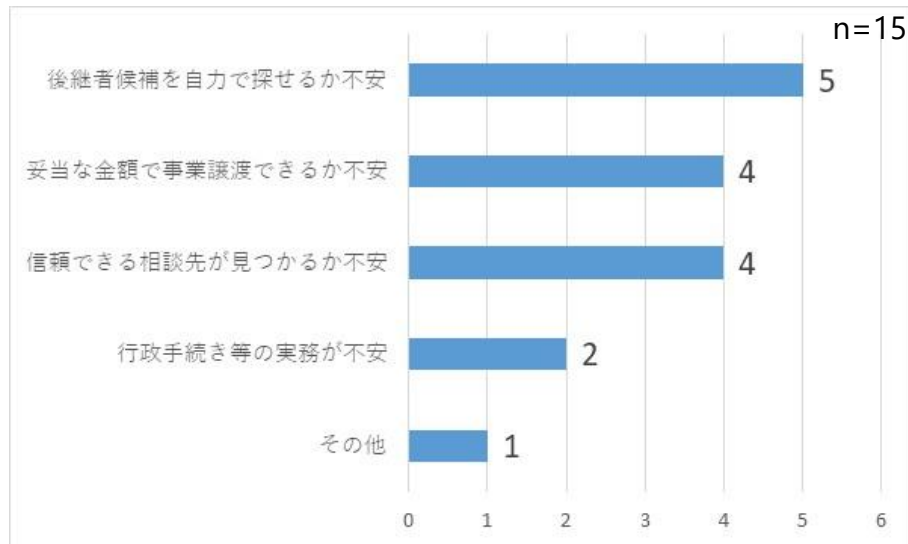
「その他」については、項目として選択されているが、具体的記載がなかった。

(5) 承継者候補の有無について(単一回答)

①回答者全体

現在の承継者候補の有無について、回答者の73.3%の11名が現時点で後継者候補を確定できていない状況となっている。一方、後継者候補がいると回答した方(※)は26.7%の4名である。

※“後継者候補がいる”はアンケートの選択肢では、「後継者候補がおり、承継について意思確認済みである」と「後継者候補はいるが、意思確認していない」に分かれるが、いずれも少数回答のため、特定を避けるため個別の回答者数は示していません。



4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(5) 後継者候補の有無について（単一回答）

① 60代以上

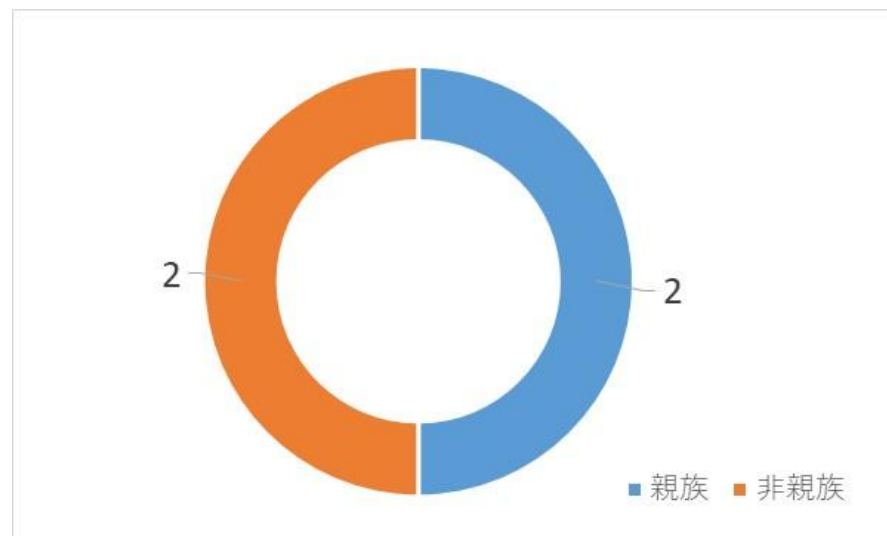
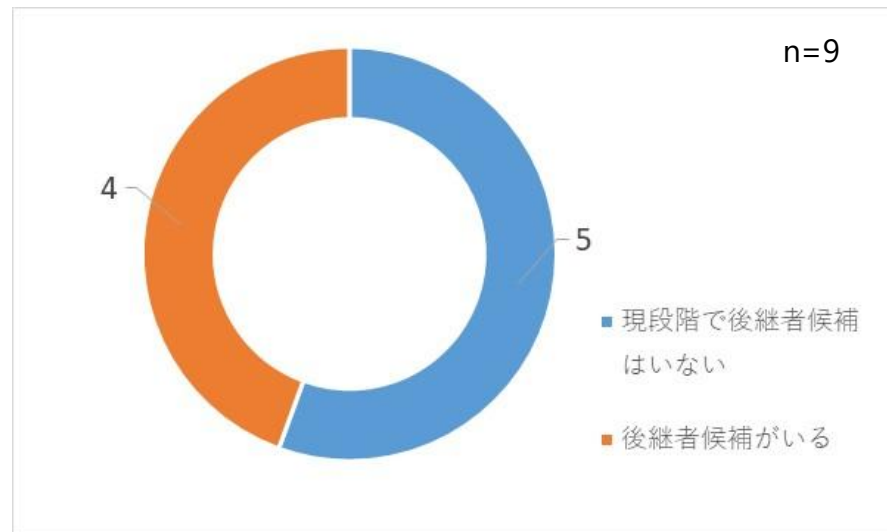
現在の後継者候補の有無について、60代以上の方9名に限っての結果を抽出した。そのうち、回答者の55.6%の5名が現時点で後継者候補を確定できていない状況である一方、後継者候補がいると回答した方は44.4%の4名であり、全体の回答割合を大きく上回っている。

また、このことから全体回答と比べた場合において、現時点において後継者候補がいると答えた方は全て60代以上の方となっている。

(6) 後継者候補の属性について（単一回答）

“後継者候補がいる”と回答した方への設問となっている。後継者候補の属性としては、“親族”“非親族”がそれぞれ同数の2名（各50.0%）となっている。

※設問に対する選択肢は「①子ども」「②親族（子ども以外）」「③非親族（自院の勤務医）」「④非親族（上記以外）」が設定されているが、対象者が少数のため選択肢①と②を「親族」に選択肢③と④を「非親族」にまとめて集計している。



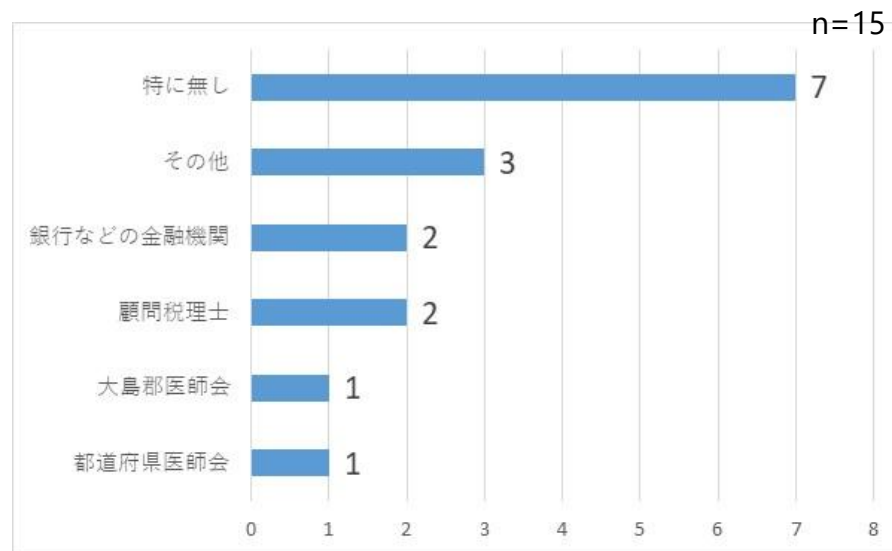
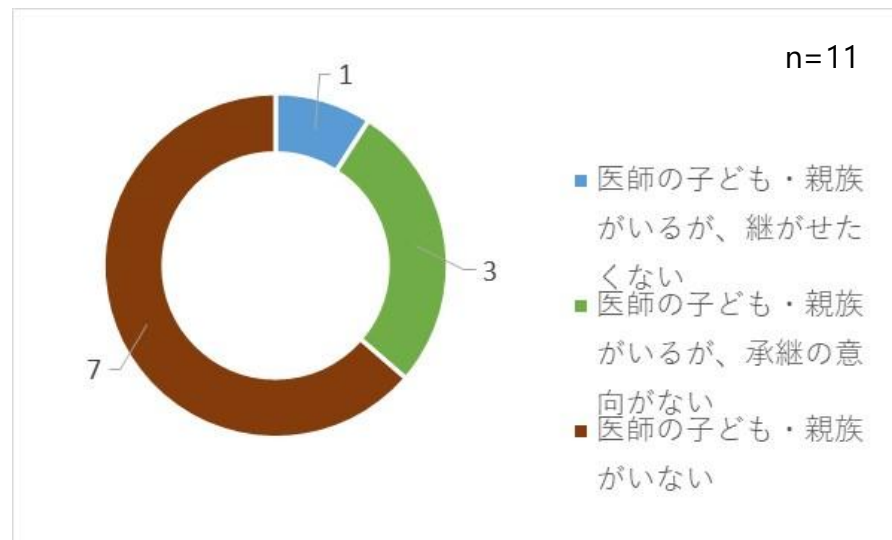
4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(7) 後継者候補がない背景事情について（単一回答）

現在、後継者候補がない背景事情としては「医師の子ども・親族がない」が最も多く7名（63.6% 回答者数比）、次いで「医師の子ども・親族がいるが、承継の意向がない」が3名（27.3%）となっている。また、第2回医療懇話会において、委員から指摘があったように開業をされている先生の意向として「医師の子ども・親族がいるが、継がせたくない」を選択した方もいらっしゃった。

(8) 承継プランの相談先について（複数回答）

承継プランの相談先として、現時点で最も多い回答が「特になし」の7名（46.7% 回答者数比）であり、この回答を選択した方は他の項目の選択がなかった。また、「その他」の具体的な記述としては「県立大島病院」「病院」「メドレーやM3などの人材派遣会社」があげられている。

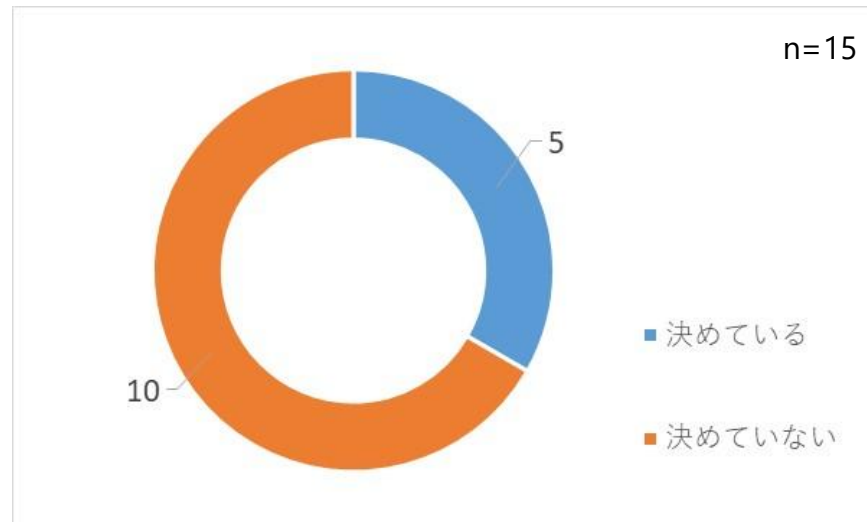


4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

(9) ご自身の引退時期について (単一回答)

①全体回答

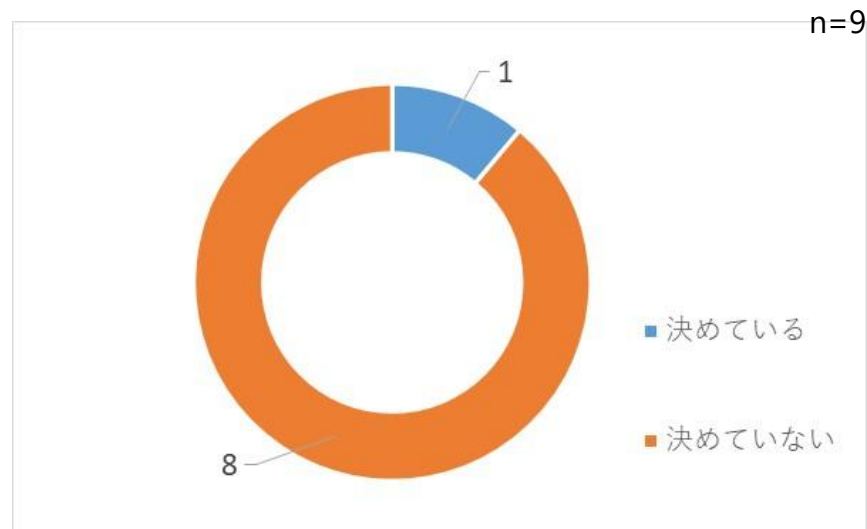
ご自身が開業医として診療・経営をいつまで継続するかの参考として、ご自身の引退時期を伺う設問である。結果、引退時期を決めている方は5名(33.3% 回答者数比)、決めていない方が10名(66.4% 同)となっている。



(9) ご自身の引退時期について (単一回答)

②60代以上

同設問に対して60代以上の方に限って回答を抽出した。結果、引退時期を決めている方は1名(11.1% 回答者数比)、決めていない方が8名(88.8% 同)となっている。



4. 今後の診療所の継承やご自身の働き方について

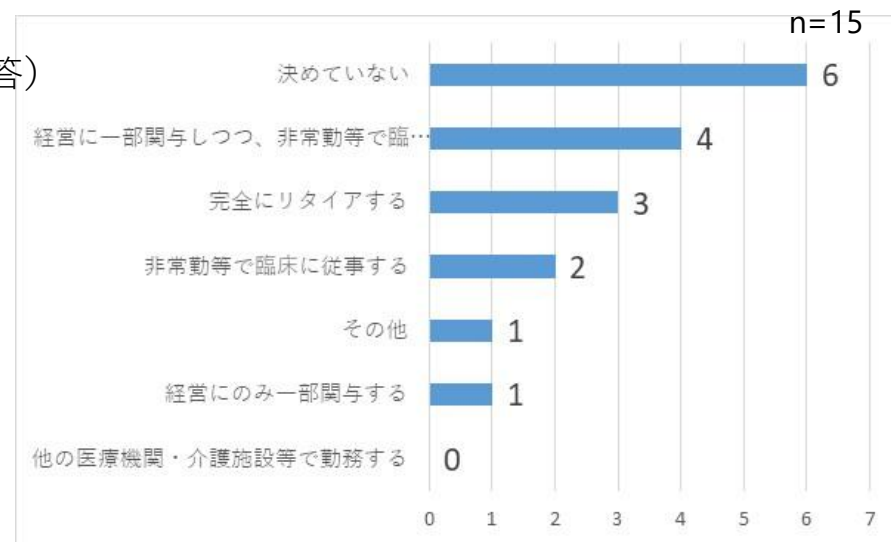
(10) 承継後のご自身のライフプランについて（複数回答）

現時点では、「決めていない」が最も多く6名（40.0％回答者数比）であるが、今後も診療所における診療や経営に何らかの形で関与するお考えを示している（※）のは5名（33.3％）となっている。

※“何らかの形で関与するお考えを示している方については、「経営に一部関与しつつ、非常勤等で臨床にも従事する」、「非常勤等で臨床に従事する」「経営にのみ一部関与する」のいずれか（又は複数）を選択した方の実数の計

注「経営に一部関与しつつ、非常勤等で臨…」

=「経営に一部関与しつつ、非常勤等で臨床にも従事する」



5. 開業医としてお勤め・経営する中で、感じていらっしゃる事

開業医としてお勤めの先生方に対して、①他の医療機関との連携体制、②休みの取りやすさ等、③研修機会の確保、④医療機関としてのやりがい、⑤診療所の経営状況の5項目について、5点法により主観的評価をお伺いした。なお、グラフ集計に当たっては「満足している＝5点」～「不満である＝1点」として選択した人数により各項目を数値化し、質問項目全体としての平均点を算出したものとしている。

↑

「③研修機会の確保」については、“どちらともいえない（3点）”を選択した方が5名（33.3% 同）と最も多く、5点・4点を選択した方が6名、2点・1点を選択した方が4名と拮抗した。また「急患のため予定変更がある」「予定はするが患者の状態による」といった意見が寄せられた。

「④医療機関としてのやりがい」については、①同様、“とても感じる（5点）”が9名と最も多く、2点・1点を選択した方がゼロ人であった。「当初からそうなるように実践している」、「期待を感じる」などの理由が寄せられた。

「⑤診療所の経営状況」の設問選択状況は②と全く同様であった。ご自身の時間の確保と経営に関する認識がリンクする可能性が感じられる。経営状況についての理由記述として、4点の評価をした方からは「診療報酬は横ばいだが、経費は年々、増加している」、1点の選択をした方からは「コロナ以降非常に悪化している」、「効率的でない」といった声が寄せられた。

まず「①他の医療機関との連携体制」については、“充実している（5点）”と回答した方が最も多く9名（60.0% 回答者数比）となっており、（2点）及び“十分ではない（1点）”を選択した方はいずれもゼロ人であり、平均は4.2と最も高かった。

「②休みの取りやすさ等」については、比較的ポジティブな評価と言える5点及び4点を選択した方が8名（53.3% 同）と、3点以下を選択した方が7名とほぼ拮抗した。特に2点又は1点を選択した方からは、「島外からの患者受け入れのために時間が不定期」や「異次元に忙しいときがある」、「患者さん相手なので、緊急対応が必要なときがある」といった理由が寄せられた。

n=15

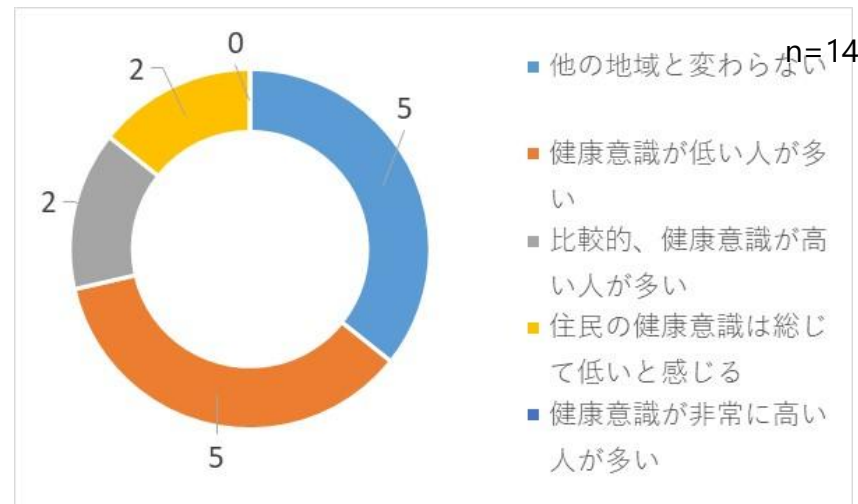


6. 奄美市の現状及び市民の健康意識

(1) 奄美市民の健康意識について（単一回答）

「開業医アンケート」「勤務医アンケート」における共通質問項目となっている。

開業医の先生方からみる奄美市民の健康意識は、「他の地域と変わらない」「健康意識が低い人が多い」を選択した方がいずれも5名（35.7% 回答者数比）となっている。また、ポジティブな項目である「健康意識が非常に高い人が多い」を選択した方はゼロ名、「比較的、健康意識が高い人が多い」を選択した方は2名（14.3% 同）に留まった。



(2) 『健康奄美21』（概要）をみて感じる事（自由記述のみ）

【自由記述】

○若い世代が健康意識が今ひとつ ○肝疾患・自殺の多さは飲酒との関連が高いと思います。 ○産科のクリニックがないので

○飲酒・喫煙・運動不足が多い ○低収入、屋仁川の存在 ○TFCのホームページをみて自ら命を守って欲しい。

○意識の相違が個々に有る。生活単位で話し合える機会を設けるなどの工夫が必要。これからの人口減少に則した、特に互助のを強める仕組みを行政としても考える必要がある。

(3) 課題解決に向けて協力できること（自由記述のみ）

【自由記述】

○全面協力 ○産業医活動を通して、若年者のアルコール問題の提起 ○タラソテラピーなどやスポーツジムがあればいい

○健康増進施設を運営しているが、コロナ以降赤字つづきです ○健康予防医療の啓発

○茶話会を開いて健康について話し合いの場に参加したい。

7. 奄美市の将来の医療についてのご意見（提言や要望、感じることなど自由記述）

【自由記述】

- 奄美市医療懇話会が話し合いだけに終始すればまったく意味はない。是非、具体的な支援策を示すことが重要である。
- 婦人科小児科医の充実
- 奄美市全体の問題は病院と診療所の棲み分けが重要と思います。
- 医院の固定資産税の減免措置をお願いします
- 医療MAAS車両（（3000～4000万）→補助金情報をアンテナ高く）を購入し、住用・笠利等の患者を公民館等で巡回オンライン診療行い、診療の効率化を。
- 若手医師（内地からでも）のローテーターでグループ診療を行う。
- 医師会病院or中央病院に総合診療集約（開業医全員集合）した拠点を作り→高度救急は県病院と徳洲会。その他は拠点で診るとい事はできたらいいな。
- 昨年10月に施行された居住サポート住宅制度を利用して、奄美のお年寄りの不安を取り除くために奄美市に協力して頂きたい。先日は担当者が来院しました。事業計画書は作成中です。まず一歩踏み出します。
- 今後より一層地域力が求められます。特に災害時には不可欠である。住民と共に関係団体を含めて日頃の連携、情報の共有のあり方の構築が求められる。
- Q6 選択肢がないので記載します。
緊急時には通院者でなくても、要望があり、必要があれば、発熱、感染症、訪問診療患者、その他にも祝祭日間わず対応しています。
- Q9 各教育委員会に確認を。各地域で報酬が異なる事に関しては把握する必要があります。